

Sernancelhe

について



セルナンセリエ

11世紀にキリスト教徒のレコンキスタによって回復されたセルナンセリエ（Sernancelhe）の町には、かつてローマ人やアラブ人が住んでいたことを示す跡がいくつも残っています。

このロマネスク様式の教区教会は、多くの人に国内で最も見事な建築物の1つと考えられています。

この地域では農業が今なお非常に重要な産業で、セルナンセリエは特にクルミの生産で有名です。

周辺地域では、ポルトガルのシトー修道会によって建てられたタバザ（Tabosa）のノッサ・セニョーラ・ダ・アスンサオン修道院（Mosteiro de Nossa Senhora da Assunção）は一見の価値があります。またセニョーラ・ダ・ラーパ聖堂（Santuário da Senhora da Lapa）も必見で、ここでは毎年8月15日に重要な宗教的祝祭が行われます。